The Japanese Association for Behavior Analysis(JABA)

P2-02　日本行動分析学会　第32回年次大会
（2014年6月27～29日　弘前大学）

反応非依存的回避事態における心理的非柔軟性を持つ大学生の行動傾向

Effects of non-contingent avoidant situation on behavior in the students with low psychological flexibility

○大屋　藍子[1)]・武藤　崇[1)]・中鹿　直樹[2)]
(同志社大学心理学研究科)　(同志社大学心理学部)　(立命館大学文学部)
Aiko Oya, Takashi Muto, Naoki Nakashika
(Doshisha University[1)], Ritsumeikan University[2)])

Key words: Behavioral Variability, Non-contingent reinforcement, Avoidance, ACT

問題と目的

臨床場面において，例えば糖尿病の治療場面で援助者が当事者に対して嫌悪刺激を与えてしまう場合，当事者が治療からドロップアウトしてしまう事例が報告されている(大田・森・秋森・山崎・坂元・小原・岡島, 1998)。アクセプタンス&コミットメント・セラピー(ACT)においても，負の強化による回避行動の生起・持続を中心とした“心理的柔軟性”の低さが精神健康に与える影響について問題視されている(Hayes, Strosahl & Wilson, 2012)。一方，課題解決の促進や新規行動の獲得に行動レパートリーの拡大や行動変動性の増大が重要であることが明らかになっている（山岸, 2008)。本研究は，参加者の心理的柔軟性の高低の違いが，反応非依存的な回避事態における行動レパートリー数・行動変動性に違いをもたらすかどうかを検討した。

方法

参加者　大学生23名の中から，日本語版Acceptance and Action Questionnaire-Ⅱ：AAQ-Ⅱ（木下・山本・嶋田, 2008）を用いて平均値±0.5SDを基準とし，心理的柔軟性高群(5名)と心理的柔軟性低群(8名)に振り分けた。

手続き　すべての参加者は，Figure1のような行動変動性を測定するコンピュータゲームに参加した(Hopkinson & Neuringer, 2003)。参加者は赤／青のボタン押し(5系列反応)によってグレー円を右下／左下へ移動させることができ，これを繰り返した。

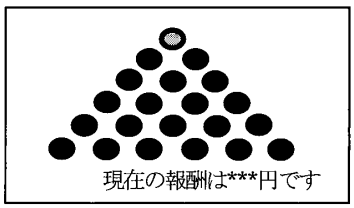

Figure1. 参加者に提示された画面

6分毎の反応後に，反応の形態に関係なく画面上に“BAD”が出現し，表示された報酬額が12円ずつ減少した(Bloom, Venard, Harden, & Seetharaman, 2007)(FT6minスケジュール)。報酬の初期設定は1000円であった。参加者は，コンピュータゲームを開始する前に以下の教示を受けた。“‘BAD”が出現しない状態を維持できるようにボタンを押してください。BADの出てきた回数に応じて報酬額が減っていきます。“BAD”という単語の出現をコントロールする方法を探してください”。コンピュータゲームは20分間実施された。本研究は嫌悪刺激を用いたが，第1著者の所属大学における倫理審査委員会にて申請番号1273として承認を得た。

従属変数　系列反応数を20回で1ブロックとし，各ブロックにおいて，最大自発可能である32パターンの5系列反応パターンのうち自発した反応パターン数を算出した。また，参加者の反応パターンがどの程度ばらついていたのか，U値を算出し指標とした(Hopkinson & Neuringer, 2003)。

結果と考察

Talbe1から，心理的柔軟性高群と低群で全般的なU値の顕著な差が見られなかった。しかし，Figure2から，心理的柔軟性高群は，低群と比較して一定の反応パターン数を保ちながら推移する参加者が多く見られた。一方，心理的柔軟性低群は，高群と比較し，反応パターン数がブロックごとに変動しながら推移する者が多かった。この結果から，心理的柔軟性の低い者は，高い者と比較し，長い時間間隔で定期的に出現する嫌悪刺激に対し，用いる反応レパートリー数を変動させながら衝動的に反応する傾向を持つ可能性がある。

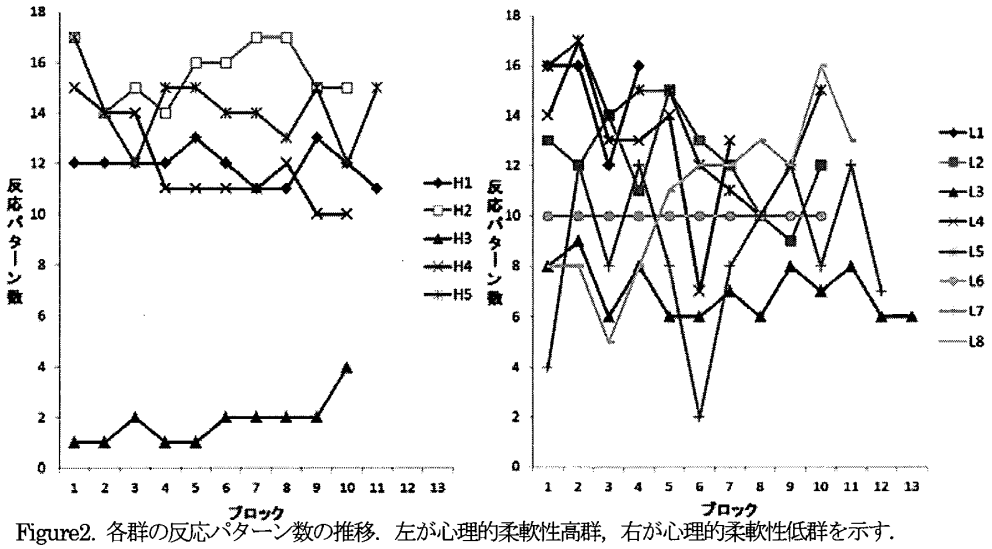

Figure2. 各群の反応パターン数の推移．左が心理的柔軟性高群，右が心理的柔軟性低群を示す．

Table1. 各群のAAQ-Ⅱ得点とU値

	心理的柔軟性高群					心理的柔軟性低群							
	H1	H2	H3	H4	H5	L1	L2	L3	L4	L5	L6	L7	L8
AAQ-Ⅱ得点	44	45	52	51	50	33	30	19	33	25	31	24	32
U値	0.5	0.59	0.13	0.43	0.51	—	0.49	0.3	0.5	0.52	0.28	0.34	0.53

Note. L1のU値に関しては，U値を算出できる反応数に満たなかったため，記載していない．

NII-Electronic Library Service